

第25回



積丹町
香美市

“北と南” 踊り繋いだ25年の絆

唯一の25回連続出場チーム

6月11日、12日の2日間、全国各地から280チームが参加した北海道を代表する初夏の祭典「第25回YOSAKOIソーラン祭り」に今年も姉妹都市の高知県香美市との合同チーム「ヤーレンソーラン積丹町&香美市」が出場し、積丹町の2才から75歳までの42人と香美市からの24人の計66人が札幌市内の5会場で乾いた鳴子の音を響かせながら両市町の交流の健在を示しました。全出場チーム中唯一の25回連続出場を果たした同チームは、各種報道等からも高い注目が集まり、さらに、記念すべき25回目の出場を記念して新調された美しい衣装でも初夏の祭典を彩りました。

積丹町で前夜祭を開催！

前日の6月10日には総合文化センター大ホールで「YOSAKOIソーラン祭り積丹町前夜

祭」が開催され、山田太鼓（香美市）の演奏や紫苑流（香美市）による舞踊、YOSAKOIソーラン演舞の披露のほか、香美市特産品が当たるお楽しみ抽選会が行われ、来場者を楽しませました。

また、ロビーでは過去の衣装等の展示も行われ、参加経験のある来場者が懐かしさに浸っていました。

25年の歩みを振り返る

■平成4年、初の高知へ
25年間の両市町の交流のきっかけは平成4年に遡ります。

この年、学生実行委員会が主体となって開催し、町観光協会と町鯉場音頭保存会が中心となって参加した「第1回YOSAKOIソーラン祭り」は大きな成功を収めました。これが発端となり、学生実行委員会は本場高知県の「よさこい祭り」に北海道チームを編成し、出場することにになり、積丹町職員2人も同行。本場高知で祭りの熱気を全身に浴びるとともに、その際、受け入れ先として名乗りをあげた旧土佐山田町（現香美市）

の手厚い対応、人の温かさに大きな感銘を受けたことから、両市町の交流がスタートしました。

同年10月には旧土佐山田町から前田助役を団長とした訪問団が積丹町へ初来町。翌年には積丹町の産業団体職員や町職員が土佐山田町を訪問し、交流を始めた。これ以降、踊りを通じた両町の交流が続き、平成7年の「第4回YOSAKOIソーラン祭り」では旧土佐山田町チームとの合同チーム「ヤーレンソーラン積丹町&土佐山田町」を初結成。平成7年・10年・11年と北海道知事賞を3度受賞するなど北と南の力を合わせた演舞で祭典を盛り上げてきました。

■姉妹都市へ

「踊り」を発端とした絆は次々と広がりを見せ、両町の町おこしグループによる交流や両町で実施される祭典への参加などが行われ、平成9年には手紙やビデオ等の交換、互いの学校・地域への訪問を繰り返して絆を深めていた余別小学校と土佐山田町平山小学校（平成17年香長小



本祭

6月11日・12日

前夜祭

6月10日



学校に統合）が姉妹校提携。平成12年には両町の地域間交流の中心となっていた「積丹町地域間交流推進協議会」と土佐山田町姉妹都市・友好都市交流推進協議会」が姉妹協議会としての盟約を交わしました。

そのような民間団体・町民・学校レベルでの交流が広がりをみせる中、平成14年には遂に積丹町と土佐山田町の姉妹都市提携が結ばれることとなり、竹内土佐山田町長や西山議会議長らが来町し調印式を挙げる。両町がこの日、晴れて姉妹都市となりました。

交流25周年は両市町にとつて節目の年に

また、平成23年には旧土佐山田町を含めた2町1村が平成18年に合併して誕生した「香美市」と改めて姉妹都市盟約を締結。現在まで交流を繋いでいます。

記念すべき交流25周年の今年、積丹町にとって町制施行60年、香美市にとっては合併10周年という節目の年となりました。

3月には香美市で合併10周年記念式典が挙行政され、松井町長・佐藤議長ら7人の議員が出席し、姉妹都市香美市を祝福しました。

また、昨年からは両市町の児童による相互交流も始まり、昨年8月には香美市小学校5校から11人が来町、今年1月には町内各小学校6年生ら12人が香美市を訪問し、北と南の絆を未来へ繋ぐ新しい交流が育つていきます。

25年の長きにわたり、両市町が熱意で繋いできた「絆」を大切にし、未来へその絆を繋いでいきたいと思います。